

# 初見文章への準備における自己分析とマインドセット

東京電機大学中学校・高等学校 松永 航平

実践年度

2025年

## 実践背景

### 【問題点】

- ・初見の文章に臨む際に、授業でとりあげられている内容が十二分に意識されない。
- ・考査と模試等の結果が乖離している(ことがある)。

### 【期待】

- ・初見の文章・問題に取り組む際の準備意識を高めること
- ・その結果、模試の成績にポジティブな変化が見られること

## 取得データおよび検証方法

- ・アンケート(2学期/3学期)
- ・「初見用スキルシート」取り組みと模試成績の比較
- ・ロイロノートに提出された「初見用スキルシート」

## 実践方法

- 対象学年: 高校1年生
- クラス数および対象生徒人数: 1クラス(38名)
- クラス特性: 習熟度上位クラス
- 実践期間: 2025年9月～

以下、「ロイロノート」を活用。

・「初見用スキルシート」を作成し、演習の前に見る→演習を行う→演習後、見た内容をふまえて実践できたかどうかを振り返ってシートをブラッシュアップ→次の演習の前に見る...というサイクルを作る。  
→自宅学習・授業・模試等で初見の文章に臨む際(直前)に、このシートを見る習慣をつける。

- ・従前の「エッセンスシート」は知識・技能のまとめとして別に作成。

## 結果

○アンケート比較 ※6「とてもあてはまる」～1「まったくあてはまらない」の6段階、各項目の満点6.0。

	2学期	3学期	差
授業内で初見の文章や問題に取り組んでいる	5.1	5.3	0.2
授業外で初見の文章や問題に取り組んでいる	3.1	2.9	-0.1
初見の文章や問題に取り組む際、何に気をつけて取り組むべきか意識するようにしている	4.7	4.6	0.0
初見の文章や問題に取り組む際、自分がこれまでどのようなミスをしてきたのか、意識するようにしている	4.2	4.3	0.1
初見の文章や問題に取り組む際、自分の取り組みについてまとめた記録を参照するようにしている	3.6	3.7	0.1
初見の文章や問題に取り組んだ後、どのような部分がうまくいったのか考えるようにしている	3.9	3.9	0.0
初見の文章や問題に取り組んだ後、どのような部分がうまくいかなかったのか考えるようにしている	4.8	4.7	-0.1
初見の文章や問題に取り組んだ後、どのような部分がうまくいったのか記録するようにしている	2.9	3.1	0.2
初見の文章や問題に取り組んだ後、どのような部分がうまくいかなかったのか記録するようにしている	3.9	3.9	0.0
初見の文章や問題に取り組んだ後、自分の思考をふまえてその後の学習に反映させている	4.1	4.2	0.2

○取り組みによる模試成績推移・比較(ベネッセ、古文漢文の得点)

	7-11月			7-11月			11-1月			11-1月		
	7-11月			7-11月			11-1月			11-1月		
	7月	11月	1月	7月	11月	1月	7月	11月	1月	7月	11月	1月
介入クラスave	14.0	9.4	23.4	17.8	9.7	27.5	13.9	11.9	25.8			
全国ave	11.1	7.6	18.7	11.3	8.4	19.7	9.1	8.1	17.2			
差	2.9	1.8	4.7	6.5	1.3	7.8	4.8	3.8	8.6			

○「初見用スキルシート」例

・試験前  
これを読むと蓄積ノート(○エッセンスシート)確認  
・試験中  
最初にリード文をちゃんと読みこんで、背景や人物関係を明確にしておく。その後全体をざっと読んで、大まかな流れを掴む。感情とかもこの時なんとなく掴んでおけるといい。無理に全部一気に理解しようとする時間がかかりすぎる。無理に全部一気に理解しようとする時間がかかりすぎる。(注もちゃんと読み込む)ポイント抑えとけば読み飛ばしOK  
主語は明確に！  
※打消、疑問・反語(係り結び)に注意  
漢文だったらふりがな(再読文字)も。  
その後、問いを軽く読んでから深掘りしていく。  
歌はどんな心情で歌っているかがポイント！

・終わった後  
わからなかった単語、助動詞は即確認  
↓蓄積ノートに書き込む  
よかった頭の使い方、試験の受け方、後悔はこれに書き込む

★時間がかかった時の活用(以前これが悪くて後悔した)時間が余った時、以前は知らないうちに知識問題を最初から考え始めてしまった。しかし、そのような時間の使い方をするのは、問題文を読み間違えてないか、条件に沿って確認...など見直しをしたときに明らかに気付けるような問いから見直しをすることが多い。(試してみたら終わった後の不安が減った！自分にはそっちがあった)。

- 自分の弱点  
・主語確定が甘い↓改善すればログラインの取りやすさにもつながる  
↓・ばの法則(前後の文で主語変化なし)などの知識活用や状況把握の特訓
- ・注をもとに解釈する力  
↓当時の情勢、背景をもとに知っている知識と結びつける。平安時代には女性は高貴な男より寵愛を受けていた)
- ・単語帳の動詞の複数意味が存在するものが訳せない  
↓前後の文脈に注目、語彙を増やす
- 訳し方...どの知識や技能を使うのか?  
助動詞?文節の区切れ?動詞の活用?
- ★定期的な知識のアウトプット  
係り結び、助動詞、再読文字など覚えていることの書き出し
- ★ログラインは主語確定と起承転結の転に注目・最も意識する

## 考察・課題

①「初見用スキルシート」に関して

- i) 質の担保・指導
- ii) 「良い」シートの分析・確認の時間の確保
- iii) 見返す習慣の徹底と確認の方法
- iv) 「初見用スキル」と「To Do」の線引き

②アンケート結果に関して

そもそも各項目の2学期の数字が高かったが、比較的もとの値が低かった「記録を参照」「記録する」がプラスになっており、介入の方針についてポジティブにとらえて良いと考えられる。

③模試成績に関して

介入を行っていない1学期 → 介入を開始した2学期 → 介入に慣れてきて実践が平常化した生徒が増えてきた3学期で、古文漢文ともに安定した進歩がみられた。「全国平均との差の推移」を見ることで、必ずしも「習熟度上位クラスだからできた」というわけではないことが確認できたと思う。理系が多い環境(31/38が理系選択)で、漢文を含む古典分野の模試成績としてはまずまずと考えられる。

④課題・反省

○アンケートで比較した意識の「変化」が薄い。1学期(4月?)から実践していれば、もう少し変化がみえたか。

○初見用スキルシートをブラッシュアップする過程で上書きするように指示したので、最初から今までの変遷がとらえられなかった。要修正。